

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築 (H26

- がん政策 - 一般 - 017)

研究実施計画立案の補助、データ収集、成果発表（分担研究課題名）

研究分担者 古井辰郎 岐阜大学大学院医学系研究科 准教授

研究要旨

一般に、若年乳がん患者はがん治療後に妊孕性が低下する危険性が高いことから、治療開始前に将来の妊娠希望や人生設計にはする、の助補を行う必要がある。がた、がん患者とその配偶者は夫婦間コミュニケーションが悪化しやすいことも知られている(Knoll, 2012)。がん患者への心理介入が患者であることは明らかになっている。本研究の1年目で開発した「がん告知時期に行う忍容性温存に関する夫婦心理教育プログラム」の他施設合同ランダム化比較試験に参加し、研究計画立案補助、データ収集、成果発表の一部を分担する。

A. 研究目的

本研究の目的は、若年乳がん患者のサバイバーシップにおいて最も重要な課題の一つである妊孕性温存にはする心理支援体制の構築である。

臨床心理士による、がん告知時の妊孕性温存に関する意思決定支援はAYAがんサバイバーシップの向上と少子化対策の一助となりうるまた、そのための心理士教育事業も端緒に付けることができた。

B. 研究方法

本研究1年目で開発した「がん告知時期に行う忍容性温存に関する夫婦心理教育プログラム」の他施設合同ランダム化比較試験(0' PEACE!試験)に参加。また、班会議での試験の進捗、データ収集と解析など意見交換、関連学会への参加による情報収集、成果発表、心理士教育等を分担した。

E. 結論

乳がんサバイバーシップの向上において、夫婦に対し、診断早期からの心理士による妊孕性温存に関するカウンセリングが必要と思われる。

C. 研究結果

本研究班開発の心理教育プログラムの有効性が確認された。(成果発表会等)

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

D. 考察

G. 研究発表

1. 論文発表

- ①古井辰郎：がん治療と妊孕性温存～がん・生殖医療について～. 岐阜県医師会医学雑誌 29 : 3-10, 2016
- ②古井辰郎：がん治療による卵巣機能低下と不妊、国内のがん・生殖医療の現状. 日本 IVF 学会雑誌 19(2) : 2-8, 2016
- ③古井辰郎、牧野弘、竹中基記、菊野享子、森重健一郎：AYA 世代がん患者の性腺機能障害、妊孕性低下に関する諸問題と医療連携の重要性. 日本小児血液がん学会雑誌 53(3) : 212-218, 2016
- ④古井辰郎、森重健一郎：地域におけるがんと生殖医療ネットワーク.
HORMANEFONTIER IN GYNECOLOGY, 23(4) 17-23, 2016
- ⑤ Lauren M. Ataman, Jhenifer K. Rodrigues, Ricardo M. Marinho, João P. J. Caetano, aurício B. Chehin, Eduardo L. Alves da, Motta, Paulo Serafini, Suzuki N, Furui T, Takae S, Sugishita Y, Morishige K-I, Teresa Almeida-Santos, Cláudia Melo, Karen Buzaglo, Kate Irwin, W. Hamish Wallace, Richard A. Anderson, Roderick T. Mitchell, Evelyn E. Telfer, Satish K. Adiga: Creating a Global Community of Practice for Oncofertility. Journal of Global Oncology. 2(2):83-96. 2016
- ⑥Furui T, Takenaka M, Makino H, Terazawa K, Yamamoto A, Morishige K-I: An evaluation of the Gifu Model in a trial for a new regional oncofertility network in Japan, focusing on its necessity and effects. Reprod Med Biol. 15:107-113. doi: 10.1007/s12522-015-0219-3, 2016
2. 学会発表
- ①古井辰郎：若年がん患者さんの将来の妊娠・出産(妊孕性温存)について. ジャパンキヤンサーフォーラム(東京)H28.8.6-7
- ②古井辰郎：地域におけるがん・生殖医療連携について. 栃木がん・生殖医療研究会(栃木)H28.8.25
- ③古井辰郎：若年がん患者の早発卵巣不全(POI)対策と医療連携. Fukuoka Hematology Seminar(福岡)H28.9.6
- ④古井辰郎：小児のがん治療と生殖機能および医療連携の意義と現状. 第 16 回 中部小児がんトータルケア研究会(岐阜)H28.10.1
- ⑤古井辰郎：がん・生殖医療連携としての岐阜モデルの現状と課題. 第3回静岡がんと生殖医療ネットワーク(静岡)H28.11.12
- ⑥古井辰郎：妊孕性温存の方法と適応・がん生殖医療における生殖医療の実際がん生殖医療専門心理士養成講座(東京)H28.5.15
- ⑦古井辰郎：小児および AYA 世代がん患者のがん治療と生殖機能～がん・生殖医療連携としての岐阜モデルの現状～. 熊本大学医学部附属病院生殖医療・がん連携センターキックオフシンポジウム(熊本)H28.6.29
- ⑧古井辰郎：女性患者の造血細胞移植における不妊予防および医療連携. 第 38 回日本造血細胞移植学会総会(名古屋)H28.3.3-5
- ⑨古井辰郎：がんと生殖医療のネットワーク 岐阜モデルの現状. がん患者の生殖医療を考えるネットワーク 講演会 2016(岡山)H28.3.13
- ⑩古井辰郎：がん専門医と生殖医療医の連携. 日本 A-PART 学術講演会 2015 シンポジウム 2「がん患者に対する妊孕性温存」(東京)H28.3.20
- ⑪森美奈子、竹中基記、牧野弘、古井辰郎、森重健一郎：子宮頸癌における CD44v と xCT の発現と役割. 第 68 回日本産科婦人科学会学術講会(東京)H28.4.21-24
- ⑫古井辰郎：生殖医療からみたがん・生殖医療の現状と問題点. 第 1 回日本がんサポーターケア学会学術集会(東京)H28.9.3-4

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案

なし

3. その他

なし